

2020年3月8日(日)朝10:10~
3月第2公同主日礼拝式説教

主の降誕節第10、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教會

説教題: 手を伸ばしなさい(13節)

聖書:マタイ 12章9~14節

<口語訳>

新約聖書18~ 頁

マタイ 12章9~14節

<新共同訳>

新約聖書21~ 頁

マタイ 12章9~14節

<新改訳第3版>

新約聖書22~ 頁

マタイ 12章9~14節

<塚本訳>

新約聖書100~ 頁

主題: 主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論：

- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主（メシヤ）なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日のマタイ12:9～14節は、主が、「人の子（わたし）は安息日の主人である（8）」で、宣言しておられたので、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」が、**安息日に手のなえた人**があつて、「いやしてさいつかえないか」と、主に訪ねますが、「安息日に良いことをするのは、正しいことである」と答え、手のなえた人をいやされ、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」は、**御子イエス・キリスト様**の殺害計画を始めた箇所です。
⇒「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」の重んじるタルムードにも、**安息日**に動物を助けることが定められており、いやしを行うことは、**律法違反**ではありませんでした。
- ⇒「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」の目的は、**御子イエス・キリスト様**が、自分たちの描く理想のメシア（救い主）ではなかつたので、排除することでした。

本論：

◇本日、マタイ書12章9～14節から主の使信に
思い・心noujをとめます。

◆マタイ12章9～14節；使徒マタイは、神の御子
イエス・キリスト様が、「人の子(わたし)は安息日
の主人である(8)」と言われたみことばにつまずき、
主を殺害する計画を始めたことを記します。

◇12:9～14節；塚本訳◆手なえ

「9 そこを去って、(ある安息日に)礼拝堂に入ら
れた。

10 するとそこに、片手のなえた人がいた。(パリ
サイ派の)人々がイエスに、「安息日に病気を
なおすことは正しいだろうか」と尋ねた。イエス
を訴え出る(口実を見つける)ためであった。

11 彼らにこたえられた、「あなた達のうちには羊
を一匹持っていて、もしそれが安息日に穴に
落ち込めば、引っぱり上げてやらない者がだ
れかあるだろうか。

12 ところで、人間は羊よりもどれだけ大切だか
知れない。だから安息日に良いことをするのは
正しい。」

13 それからその人に言われる、「手をのばせ。」

のばすと直って、片方の手のようによくなつた。

14 パリサイ人たちは出ていって、イエスを殺すことを決議した。」と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇9～12節；「そこを去って、(ある安息日に)礼拝堂に入られた(9)」「するとそこに、片手のなえた人がいた。(パリサイ派の)人々がイエスに、「安息日に病気をなおすことは正しいだろうか」と尋ねた。イエスを訴え出る(口実を見つける)ためであつた(10)」「彼らにこたえられた、「あなた達のうちには羊を一匹持っていて、もしそれが安息日に穴に落ち込めば、引っぱり上げてやらない者がだれかあるだろうか(11)」「ところで、人間は羊よりもどれだけ大切だか知れない。だから安息日に良いことをするのは正しい(12)」と、「イエスを訴え出る(口実を見つける)ため(10)」「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」が、「安息日に病気をなおすことは正しいだろうか(10)」と、訪ねます。

◆9節；「そこを去って、(ある安息日に)礼拝堂に入られた」のことばに先ず注目します。それは、**御子イエス・キリスト様**が、敢えて敵陣へ乗り込まれたのです。

◆10～12節；「ユダヤ人指導者・パリサイ派の人」は、主を罠にかける絶好のチャンスと考え、ユダヤ議会に訴える口実を見つけようとし質問をします。

⇒質問の真の狙いは、「**神への冒瀆罪**」です。彼らにとって、「人の子(わたし)は安息日の主人である」の主のことばは、**神への冒瀆**そのものです。

◇13～14節；「それからその人に言われる、「手をのばせ。」のばすと直って、片方の手のようによくなつた(13)」、「パリサイ人たちは出ていつて、イエスを殺すことを決議した(14)」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、いやしでお答えました。

⇒病気治療は、医師が行えますが、検査なし、薬なし、いやしはことばのみで、みことば即いやしは、人の知恵を越えていきます。

⇒「くすぶる燈心」を消さず、「折れた葦を」を真っすぐにおできになる主です。

⇒**SY師**は、「(ダビデ王よりも、祭司よりも、)宮よりも大きい者が(今)ここにいる(6)」を引用しつつ、「安息日を守ったこともなく、神殿にもうでたこともなく」、「異邦人が…望みを置くのは…イエス・キリストのみである」と。

結論：

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
- ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
- ◇本日の**マタイ12:9～14節**は、主が、「人の子(わたし)は安息日の主人である(8)」で、宣言しておられたので、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」が、**安息日に手のなえた人**があつて、「いやしてさいつかえないか」と、主に訪ねますが、「安息日に良いことをするのは、正しいことである」と答え、手のなえた人をいやされ、「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」は、**御子イエス・キリスト様**の殺害計画を始めた箇所です。
⇒「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」の重んじるタルムードにも、**安息日**に動物を助けることが定められており、いやしを行うことは、**律法違反**ではありませんでした。
- ⇒「**ユダヤ人指導者・パリサイ派の人**」の目的は、**御子イエス・キリスト様**を理想のメシア(救い主)ではなかつたので、排除することでした。

⇒「人の子(わたし)は安息日の主人である(8)」が、
神の御子イエス・キリスト様の宣言・宣告です。

⇒ローマ1:12～13塚本訳；

12 (「すべて」と言う以上、)ユダヤ人も異教人も、
その間になんの差別もないのである。なぜなら、
同じ一人の方がすべての人の主であって、
御自分を呼ぶすべての人に、あり余る恩恵を
お与えになるからである。

13 ほんとうに(預言者ヨエルが言うように、)『主
[キリスト]の名を呼ぶ者はすべて救われる。』

